

令和８年度（令和７年度事業）
美深町まち・ひと・しごと創生総合戦略
評 価 報 告 書

令和８年度 まち・ひと・しごと創生総合戦略評価（令和７年度事業）
について、次のとおり報告する。

令和８年８月２７日

美深町まち・ひと・しごと創生推進会議 会長 齊 藤 宏 行

1 評価の対象

まち・ひと・しごと創生総合戦略に搭載された具体的な施策のうち41の主な事業について評価した。

2 評価の方法

まち・ひと・しごと創生総合戦略における基本目標1～4に分類される41の主な事務事業について、評価調書及び補足説明によって、3部会において担当する施策を4段階で評価した。

美深町まち・ひと・しごと創生推進会議 会長 齊藤 宏 行、副会長 佐 竹 仁 (◎は部会長 ○は副部会長)	
福祉教育部会	◎佐竹 仁 ○花井あゆみ 宇野 育子 赤川 拳士 工藤 裕美 小倉 雅博 和田 政則 中林 秀文 井川 健
産業経済部会	◎遠藤 伸浩 ○菅野 聖一 齊藤 雄太 向井 朋博 山下 朋子 小野 勇二 森田 重樹 町屋 英雄 中村 稔
環境行財政部会	◎村本 修二 ○阿部 浩晶 齊藤 宏行 清水 節子 竹本 ゆかり 小林 一仙 内山 徹 中野 浩史 酒井 博昭

3部会の評価施策数	
福祉教育部会	12事務事業(第3・4章)
産業経済部会	18事務事業(第2章)
環境行財政部会	11事務事業(第1・5章)
四段階評価	
A評価 期待どおりの成果が得られた	B評価 一応の成果が見られた
C評価 あまり効果が見られない	D評価 全く成果が見られない

3 評価の経過

次のとおり会議・部会を開催した。

- ・ 8月 4日 第2回まち・ひと・しごと創生推進会議
- ・ 8月 4日 第1回各部会開催
- ・ 8月17日 第2回福祉教育部会
- ・ 8月27日 第3回まち・ひと・しごと創生推進会議・各部会開催

4 評価の結果

41事業のうち、A評価が31事業[75.6%]、B評価が9事業[22.0%]、C評価が1事業[2.4%]となっており、各事業は概ね順調に実施されていると評価する。

目標達成に向けて、今後も継続した取組が必要である。事務事業ごとの評価結果は次項のとおり。

基本目標ごとに区分した評価結果の概要については、次のとおり。

令和7年度まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価一覧

項	第 1 章			推進会議 評 価	担当 グループ	担当による事業の検証					事業 評価	今後の 方向性
	事業No.		事 務・事 業 名			進捗 状況	指標達 成状況	費用対 効果	実施 方法	次年度 課題		
1	1-2-1	113	地域公共交通運行事業	A	生活環境	A	B	C	A	B	A	現状維持
2	1-3-2	121	公営住宅長寿命化事業	B	水道住宅	B	B	B	B	B	B	見直し
	第 2 章			まちひとしごと 創生推進会議	担当 グループ	事業の検証					事業 評価	今後の 方向性
	事業No.		事 務・事 業 名			進捗 状況	指標達 成状況	費用対 効果	実施 方法	次年度 課題		
3	2-1-1	201	新規就農者等補助事業	A	農業	A	B	A	A	B	B	現状維持
4	2-1-1	203	地域担い手育成事業	A	農業	A	B	A	A	B	A	現状維持
5	2-1-1	205	農業後継者育成事業	B	農委	A	B	B	B	B	B	現状維持
6	2-1-3	211	農業雇用確保対策事業	A	農業	A	B	A	A	B	A	現状維持
7	2-1-4	220	がんばる美深農業支援事業	A	農業	A	A	A	A	B	A	現状維持
8	2-1-4	221	農畜産物等販路拡大PR事業	B	農業	B	A	B	A	B	B	現状維持
9	2-2-1	225	町有林造林保育事業	A	建設林務	A	A	B	A	A	A	現状維持
10	2-2-1	226	民有林造林保育事業	A	建設林務	A	A	A	A	A	A	現状維持
11	2-2-2	229	林業経営強化事業	A	建設林務	A	A	A	A	B	A	現状維持
12	2-2-2	230	森林認証推進事業	A	建設林務	A	A	A	A	B	A	現状維持
13	2-3-1	232	商工業活動支援事業	A	経済産業	B	A	A	A	B	A	現状維持
14	2-3-2	235	快適な住まいづくりと商工業振興事業	A	経済産業	A	A	A	A	A	A	見直し
15	2-3-3	237	商工業担い手支援事業	A	経済産業	A	A	A	A	B	A	現状維持
16	2-4-1	238	観光推進体制支援事業	A	経済産業	A	A	A	A	B	A	現状維持
17	2-4-2	239	観光PRとイベント支援事業	A	経済産業	A	A	A	A	B	A	現状維持
18	2-4-2	240	魅力ある観光地づくり推進事業	A	経済産業	A	A	A	A	B	A	現状維持
19	2-5-1 -2	242	チョウザメ振興事業	C	経済産業	B	C	B	B	B	C	見直し
20	2-6-1	243	就労活動支援事業	B	経済産業	B	C	B	A	B	B	現状維持
	第 3 章			まちひとしごと 創生推進会議	担当 グループ	事業の検証					事業 評価	今後の 方向性
	事業No.		事 務・事 業 名			進捗 状況	指標達 成状況	費用対 効果	実施 方法	次年度 課題		
21	3-2-1	303	山村留学推進事業	A	教育	B	B	B	B	B	B	現状維持
22	3-2-1	304	青少年教育交流事業	A	教育	B	B	B	B	B	B	見直し
23	3-2-6	314	高等学校教育推進事業	A	教育	A	B	B	A	B	A	現状維持
24	3-3-4	319	青少年健全育成事業	A	教育	B	B	B	B	B	B	現状維持
25	3-5-1	322	冬季スポーツ事業の推進	B	教育	B	B	B	C	C	B	現状維持
26	3-5-1	323	スポーツ振興事業	A	教育	B	A	A	A	B	B	現状維持
27	3-5-1	325	こどもスポーツ未来基金事業	A	教育	A	A	A	A	B	A	現状維持
項	第 4 章			まちひとしごと 創生推進会議	担当 グループ	事業の検証					事業 評価	今後の 方向性
	事業No.		事 務・事 業 名			進捗 状況	指標達 成状況	費用対 効果	実施 方法	次年度 課題		
28	4-1-2	402	各種健診・予防保健事業	A	保健福祉	B	B	A	A	B	B	現状維持
29	4-1-3	403	地域医療・福祉体制整備事業	A	保健福祉	A	A	A	A	B	A	現状維持
30	4-2-1	405	母子保健対策事業	A	保健福祉	A	A	A	A	A	A	現状維持
31	4-2-2	406	子どもを産み育てるための経済支援	A	保健福祉	A	A	A	A	A	A	規模拡大
32	4-3-2	416	高齢者等生活支援事業	A	保健福祉	A	A	B	A	B	B	現状維持
項	第 5 章			まちひとしごと 創生推進会議	担当 グループ	事業の検証					事業 評価	今後の 方向性
	事業No.		事 務・事 業 名			進捗 状況	指標達 成状況	費用対 効果	実施 方法	次年度 課題		
33	5-1-1	501	地域人材育成事業	A	企画	B	B	B	B	B	B	現状維持
34	5-1-1	502	新しいまちづくりサービスの推進	A	企画	A	A	A	A	B	A	現状維持
35	5-1-2	503	自治会活動推進事業	B	企画	A	B	B	A	B	B	現状維持
36	5-1-2	504	地域活動活性化促進事業	A	企画	B	A	A	B	B	A	現状維持
37	5-2-1	506	移住定住推進対策事業	B	経済産業	A	A	B	B	B	B	見直し
38	5-2-1	507	地域支援対策事業	A	経済産業	A	A	A	A	A	A	現状維持
39	5-2-2	508	地域交流活動推進事業	A	企画	A	B	B	B	B	B	現状維持
40	5-2-4	510	ふるさと交流事業	B	企画	A	B	B	B	B	B	現状維持
41	5-2-5	511	産学官連携活性化事業	B	経済産業	B	B	A	A	B	A	現状維持

基本目標 1

国の基本目標① 稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする
まちの特性をいかした産業を振興し、働く場をつくる

(1) 農業の振興**●担い手の育成確保**

当該年度において新たな就農者を確保することはできなかったが、新規就農者等補助事業は既存の新規就農者の経営安定に大きく寄与しており、この充実した支援は継続すべきものとして評価する。居ぬき以外での就農については引き続き検討を望む。

地域担い手育成事業は、町内農業関係機関が連携する「地域担い手育成支援推進協議会」において各機関が情報を共有し事業を進められており、今後も町の農政推進の中心的役割を担う組織として大いに期待する。

農業後継者育成奨学金貸付事業、パートナー対策事業についても重要な役割を果たしており、今後も継続を希望する。

●農地の維持と経営基盤の安定強化

農業雇用対策事業は、必要とする労働力は農作業時期によって濃淡があり、時期に応じた派遣会社の利用に対する支援は生産者にとって益々重要となる。派遣労働者の住居に関する課題とともに、より充実した支援策となるよう検討を希望する。

持続ある美深農業の実現のため『がんばる美深農業支援事業』は、町農業政策の中心として支援内容の充実を図られてきたことを評価する。当事業が果たすべき役割は大きいと考えるので、メニューの見直しを含め、より充実した支援となるよう検討を進められたい。

農畜産物販路拡大PR事業は、農畜産物や加工品の販売について新規市場の開拓やPRを実施する際の支援であり、投資的な意味で効果のあるものと捉えている。成果指標が「加入構成団体数」とすることが適切であるか再考願いたい。

(2) 林業の振興**●森林の保全と経営基盤の安定強化**

町有林の適切な管理により生みだされるJ-クレジット、カーボンオフセットなどの取り組みや、森林認証制度の取り組みなど、持続可能な森林経営を目指していくためにも、今後も継続して計画的な施業を実施されたい。

林業界においても担い手不足が課題であり「北海道立北の森づくり専門学院」に担い手対策の効果が期待されることから、今後も実習フィールドの提供など支援を継続していく必要がある。

(3) 商工業の振興**●経営基盤の安定強化**

商工会主催のイベント開催やプレミアム商品券事業は、商店街の賑わい創出ならびに地域経済の循環機能の維持に一定の成果を収めている。

また、エネルギー価格高騰対策としての支援金交付事業については、事業継続を支えるセーフティネットとして機能した。これらの施策は、地域の経済基盤を維持・強化する観点から、妥当かつ有効な事業であったと評価する。

●企業誘致・創業支援の推進

企業誘致については簡単に進むものではないが、アイデアや工夫により事業が進展するよう取組を継続されたい。

商工業担い手支援事業は、商工業の活性化および次世代の担い手育成に効果的な取り組みである。近年は飲食店の新規開業が増加傾向にあり、創業支援、事業承継、異業種進出、人材育成といった多角的な支援体制が、地域経済の底上げに大きく寄与している点が評価できる。

(4) 新たな産業の振興

●チョウザメ産業の確立

飼育技術の向上と販路拡大の兆しも見え一定の成果が認められるが、一方で成果指標を大きく下回っており、費用対効果の観点での課題は大きい。将来的な事業方針を明確にされることを期待する。

産学官連携による推進といった視点は継続して進めていくことを期待する。

(5) 就労対策・勤労者福祉の充実

●雇用の安定と確保

求職者就職訓練支援事業や人材開発センターで実施される各種講習は、地域の雇用情勢を改善し、安定した労働力を確保するための極めて重要な施策であり、継続的に事業を推進されたい。

数値目標	基準値	目標値
町内企業就労者数の維持	1, 584人 【平成28年業種別従業者数】	1, 584人 (現状維持)

基本目標2	国の基本目標② 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる 美しい自然と豊かな地域資源をいかし、新しい人の流れをつくる
(1) 関係人口の創出 ●移住定住の促進 移住を希望する方が短期でも美深町の生活を体験できるよう移住体験住宅が整備されている。これらは即効果が現れるものではないものの、気軽に美深町での生活を体験できることは町を知ってもらう場として有効であり、今後も事業を継続していく必要がある。 地域おこし協力隊の任用は、新たな視点や知識をまちづくりに生かすことができる有効な事業であるが、隊員が活動後に定住につながることに期待するとともに、その活動内容や成果を町民に広く伝えられるような事業の展開に期待する。 ●山村留学の推進 山村留学は地域と学校が一体となって特色ある教育を実践されている。全国各地から親子留学やホスターホームによる児童生徒の受入れを積極的に行っており、多くの生徒を受入できている。 ●地域間交流・ふるさと会活動の推進 添田町との青少年教育交流事業では、異なる歴史や文化、気候の違いを肌で感じることができ、事業後も子供同士の交流が続くなど、貴重な体験の場となっている。ホームステイでの受入が負担になってきている現状はあるが、子供たちの成長につながる体験・交流活動として今後も継続していけるよう検討されたい。	

その他、添田町や太田市、(株)SUBARUなどいずれの交流事業も、人材の育成や人的ネットワークの形成に非常に有効であるとともに、個人や企業など外から美深町を応援してくれる関係人口の増加のためにも非常に重要である。引き続きその関係性を維持・拡大できるよう継続して進められたい。

ふるさと会活動においては、これまで築いてきたつながりは美深町にとって財産であり、引き続きその関係性を維持できるように進められたい。会員の高齢化が進むと同時に会員の減少が続いていることは課題であるが、今の形に急な会員増を見込むことも難しく、当面は現状を維持しながら事業を継続されたい。

(2) 観光の振興

●魅力ある観光の推進

松山湿原やトロッコ王国などの自然資源や地域資源を組み合わせた観光コンテンツは、交流人口の拡大に向けた重要な資源として機能しており、引き続き必要な支援を行っていくべきと考える。広域的な観光についても関係機関と連携して引き続き推進していく必要がある。

また、観光PRや情報発信、さらにはイベント開催を通じて「まちの賑わい」や「地域活性化」を図るために観光協会など関連団体への継続的な支援は必要である。

数値目標	基準値	目標値
観光客年間入込数の増加	43.7万人 【2020年度】	45.0万人 (3%増加)

基本目標3

国の基本目標③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
結婚・出産・子育ての希望をかなえる

(1) 住宅の整備

●良好な住環境の整備推進

快適な住まいづくりと商工業振興事業は、住環境の整備、定住の促進、商工業活性化に有効な事業であり、その波及効果は極めて大きいと評価できる。今後は、物価高騰の影響など社会情勢の変化に対応した制度見直しを検討されることを期待する。

●公営住宅等の適切な維持・管理の推進

住宅の老朽化については順次更新しており、引き続き適正な維持管理に努められたい。管理戸数については、人口減少などの影響もあり最近の入居の募集が多い(空き住宅が増えている)ことから、必要とされる戸数の把握に努めていかなければならない。

(2) 学校教育の充実

●高等学校教育の充実

美深高校については、一定の入学者数を確保できているものの、奨学金制度は他校でも導入されているため、新たな支援事業策の検討が必要である。美深高校の課題解決に対しては、道立高校であるという性質上、振興協議会で検討していただくことが望ましいと考える。

(3) 社会教育の充実

● 青少年健全育成

青少年健全育成事業においては、交通安全や防犯対策など地域全体で子どもたちを見守る体制が不可欠である。各家庭のほか、学校、地域、警察など関係機関が連携、協力を図り「子どもたちの安心・安全」の確保に一層努めていただきたい。

(4) 子育て環境の充実

● 子育て環境の整備

令和7年度に「こども家庭センター」が設置され、妊娠期から子育て期に至るまで、母親や家族が安心して子供を産み、子育てできる体制になっている。今後も切れ目のない支援事業を継続・推進されたい。

● 子どもを産み育てるための経済的支援

不妊治療は妊娠を望む夫婦にとって極めて重要なため、安心して治療を受けられるよう引き続き経済的な支援を継続していく必要がある。

数値目標	基準値	目標値
合計特殊出生率の向上	1. 25人 【2020年度】	1. 66人 (人口ビジョン目標値)

基本目標 4

国の基本目標④ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる
安心して暮らせる魅力的な地域をつくる

(1) 道路・交通網等の整備

● 公共交通の確保

公共交通の維持は、一部において交通不便地域が存在するが、その他のエリアでは市街地とを結ぶ公共交通が網羅されており、車を持たない方の日常の足になるなど、その地域の生活に密着している。費用対効果の面だけを見ると厳しい状況であるが、将来にわたって維持していくことが必要である。

(2) 健康づくり・医療の充実

● 病気の予防と早期発見の推進

各種健診（検診）の受診実績が減少傾向にある。町民の健康寿命の延伸を図るため、今後も受診率向上に向けた啓発活動が必要である。

● 地域医療の確保

美深厚生病院は地域医療に欠かせない存在であり、安定的な医療サービスを維持するためには運営補助の負担はやむを得ない。町民が安心して医療を受けられる環境を整えるためには必要な対策である。

(3) 高齢者支援の充実

● 地域包括ケアシステムの充実

高齢者が住み慣れた地域で健康で生きがいを持って安心して生活するためには、各種事業の継続的な実施と安定したサービスが提供できるよう努めてほしい。

(4) スポーツ活動の推進

●スポーツによるまちづくりの推進

町民体育館の改修により町民運動会は代替イベント「びふかスポーツフェスタ」を開催するなど、町民がスポーツに親しんでもらえるよう、役員や関係団体が協議しながら各種大会が開催されている。

冬季スポーツ事業については、エアリアルプロジェクトは開始から 20 年を迎え、所属していた選手が念願のオリンピック出場を果たすことができたことは、関わってきた関係者のおかげであり、今後の大きな励みになる。今後もエアリアル大会の継続開催、エアリアル選手の育成・支援を引き続き検討していただきたい。

こどもスポーツ・文化未来基金事業については、子供たちの多岐にわたる活動を広く支援している。少子化が進む中ではあるが、次世代の活動に対して継続した支援をお願いしたい。

(5) 住民参画のまちづくりの推進

●住民参画の促進

人材育成研修支援事業は、知識の習得や町職員を含む異業種間の仲間づくりに効果的な事業であることから、参加された方や、そこから広がっていく動きに期待するとともに、引き続き事業実施できるように進められたい。

買い物支援サービスは、高齢者をはじめとした住民になくてはならないサービスとして定着している。継続的に新規利用希望者もいることから、引き続き事業の継続と周知に努められたい。

●コミュニティ活動の推進

自治会活動の推進については、生活スタイルの変化や情報化の進展によって昔とは状況が変わってきているが、変化に対応しながら、今の時代に必要とされる自治会活動を展開していくことも必要である。地域の自主性によるものが前提であるが、そのサポート役として町が配置している地域担当員の活動にも期待したい。合わせて、活動の拠点となるコミュニティセンター等の計画的な修繕も進められたい。

美深町活性化促進事業は、住民の意欲ある活動を支援する制度であり、まちの活性化に直結するものである。さらなる制度のPRによって、地域活性化や新たな特産品開発、イベントの創出につながるよう引き続き事業を推進されたい。

数値目標	基準値	目標値
地域計画策定自治会数	14自治会 【2020年度】	17自治会 (全自治会)

未来へ続く
笑顔あふれるまち

